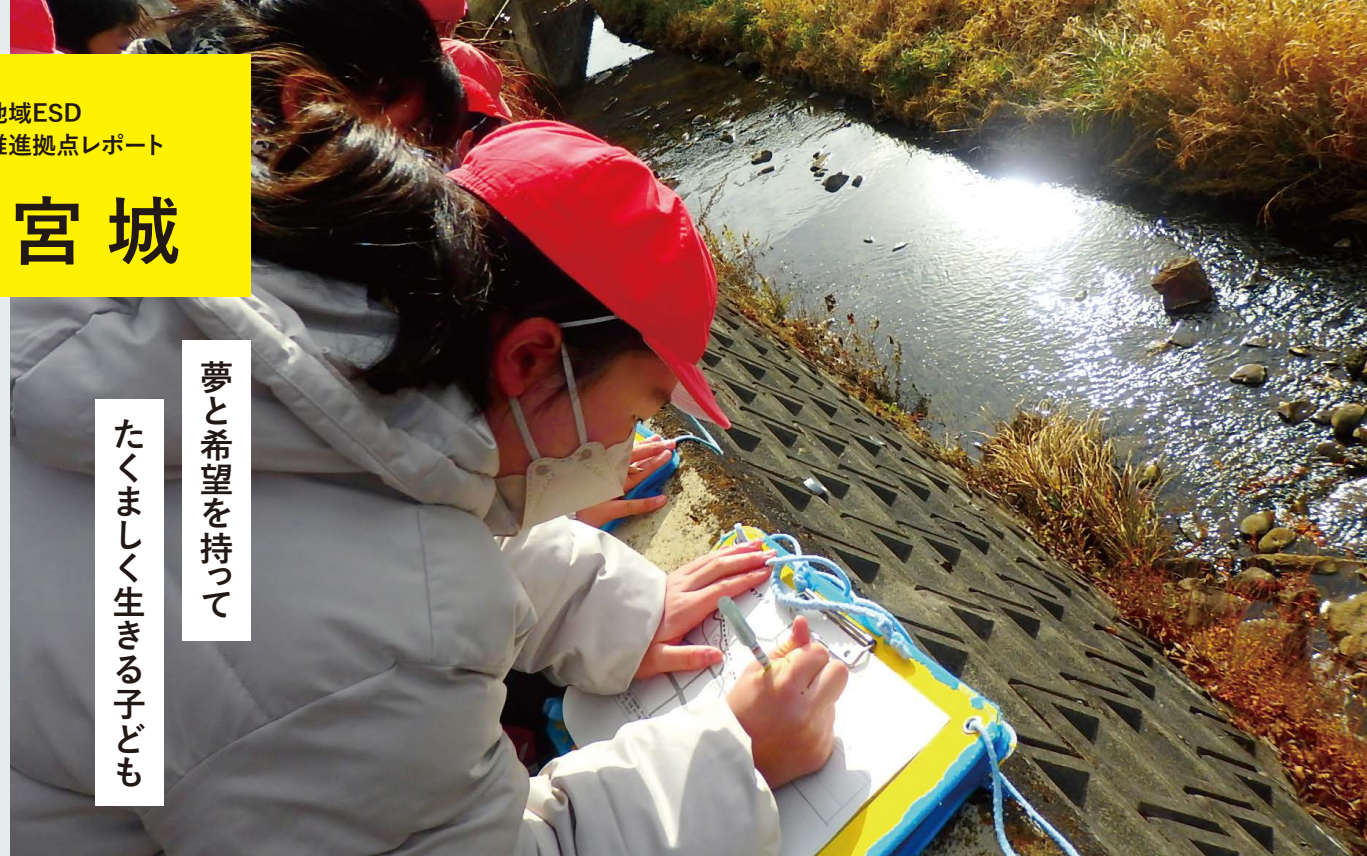


夢と希望を持って

たくましく生きる子ども



公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク (MELON)



緑の地球を子どもたちへ。

1993年から宮城県を拠点に活動を 続けている環境保全団体です。

1992年にブラジル・リオデジャネイロで開催された「地球サミット」をきっかけに、緑と水と食を通して環境とくらしを考え、地球の環境保全に寄与するために、私たちの地域からも活動を起こそうと、多くの市民、研究者、協同組合、企業、団体が集い、NGOを作ろうと立ち上がりました。市民一人ひとりが自覚を持ち、活動・実践していくことのできる場として、MELONがあります。当団体では、ストップ温暖化センターみやぎ※の事業として、宮城県内のSDGs環境学習支援を行っています。

※2000年5月22日、財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(現 公益財団法人)が宮城県知事の指定を受けて誕生。

■組織・団体に取り組む課題(テーマ)[SDGs]



写真について

- 上: 梅田川での調べ学習
- 下左: 具体的な対策を調べる児童
- 下中: グリーンカーテンをつくってみよう
- 下右: 株式会社エフピコ社員による講話

〒981-0933
 宮城県仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台5F
 電話 022-276-5118
 FAX 022-219-5713
 E-mail melon@miyagi.jpn.org
 URL https://www.melon.or.jp/



活動紹介

持続可能な社会の 創り手を育てる 「みやぎのSDGs環境学習支援」



伊達武将隊による種の贈呈



体育館でみんなで学習

プロジェクト概要

「みやぎのSDGs環境学習支援」は、「SDGs環境出前講話」と「SDGs教育プロジェクト」の2つの支援メニューがあり、新学習指導要領前文にある「児童が持続可能な社会の創り手となること」に沿って、講師のコーディネートやプログラム作成等の支援を行っています。1日完結型のSDGs環境出前講話では、「キリバス編」「南極編」「気候変動編」の3種類を用意しています。講話後には、当団体が作成した小冊子「SDGsと地球温暖化」やオリジナルウェブ教材「わたしたちのSDGsライフスタイル」を提供し、事後学習を促しています。通年型のSDGs教育プロジェクトでは、防災や気候変動の学習を体系化した学びにするために、独自のカリキュラムを編成しました。カリキュラムを受けて作成した個々の学習プログラムは、①新学習指導要領に沿った学習であること、②教科等に位置付けること、③教科横断的な学習であることの3つが特徴です。

ESD実践のポイント

「SDGs環境出前講話」では、キリバス編は感情に訴えて行動を促し、南極編は知的好奇心を高めて意欲につなげ、気候変動編はワークショップなどを交えて自分事につなげていく講話となりました。共通することは、深刻な課題を扱いつつも、子どもたちに「夢や希望」を与えて、持続可能な社会の創り手を育てることです。「SDGs教育プロジェクト」では、出前授業が1回だけの学校もあれば、継続して支援した学校もありました。学校側に提案は行いましたが、負担にならないように配慮し、あくまで各学校の要請に沿って支援をしました。当団体が学校と社会をつなぐ役目を果たし、新学習指導要領前文の中にある「児童が持続可能な社会の創り手となること」に沿った学習を創造し、実践を支援することによって、教育を通してSDGsの実現を目指しています。

担当者からのメッセージ

今年度は、小学生だけでなく中高校生の反応がとてもよくて驚きました。講話を聞かされたときの表情は豊かであり、キリバス編の場合、前半の生活や文化の話では笑い声が聞こえてきました。後半の気候変動の話になると表情が一変し、真剣な眼差しでメッセージを受け止め、中には涙を流す児童生徒も見られました。すべての講話に職員が同行することで、講師と学校をつなぐ役目を果たすとともに、講話を聞く皆さんの反応も見ることができました。



事務局長
亀崎 英治さん